



STANDARD

C501/C601

ダブルバンド FMトランシーバー

C701

トリプルバンド FMトランシーバー

取扱説明書

- お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
- お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。
- 本機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
- 本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

日本マランツ株式会社

3ページより

はじめに

9ページより

使いかたの基本を知ろう

19ページより

もっと自由にあつかうために

29ページより

メモリー機能を使うには

37ページより

スキャン機能を使うには

47ページより

レピータを使うには

53ページより

こんな使いかたもできます

59ページより

ご参考に

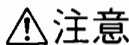
ご使用まえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。
左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

警告

- 単3形のアルカリ乾電池・マンガン乾電池・当社指定のニッカド充電電池CNB401以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 濡れた手で電池を取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。
- 当社指定の充電器以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



⚠警告

- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電池は分解しないでください。電池を漏液・発熱・破裂させる原因となります。
- 使用済の電池は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。
- 電池の端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。



⚠注意

- 機器で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。
- 電池の極性表示（プラスとマイナスの向き）を確認してから機器内に挿入してください。間違えますと電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。



⚠注意

- この機器が近くのテレビ・電子機器・医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。
- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 自動車などの運転中はこの機器を操作しないでください。安全運転の妨げになることがあります。
- この機器を長期間ご使用にならないときは、電池を本機から取り外してください。電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。
- 乳幼児の手の届かないところで、電池は使用・保管を行ってください。
- 連続して送信をしないでください。機器が熱くなり、やけど・けが・故障の原因となることがあります。



本書の読みかた

本書は、C501、C601、およびC701の説明を兼ねています。

また、C501の430MHz帯を主体に説明しています。

本書では、次の記号を使っています。



覚えていると便利なことや、アドバイスを示します。



参照するページを示します。



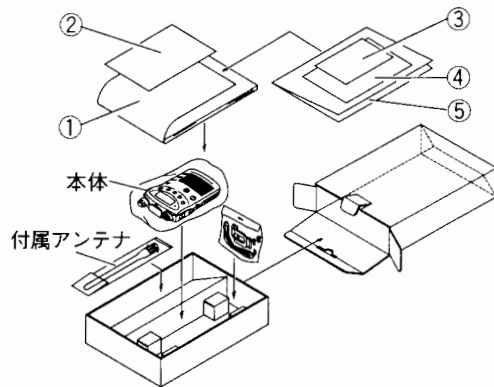
セットモード機能を表わします。
この機能を使うと、本機をより使いやすい状態にセッティングできます。



ファンクションキーを押しながらの操作を表わします。

梱包品をご確認ください。

また、保証書にはお買い上げになった、販売店、日付が記入されていることをご確認ください。



①取扱説明書

②保証書

③全国営業所一覧

④愛用者カード

⑤ブロック図

もくじ

ご使用の前に	I
本書の読み方	III
梱包品をご確認ください	III
はじめに	3
正しくお使いいただくために	4
アンテナを取り付けるには	5
ハンドストラップを取り付けるには	6
ベルトクリップを取り付けるには	6
電池を入れるには	7
点検してください	8
使いかたの基本を知ろう	9
電源を入れるには	10
音量を調整するには	10
バンド(周波数帯)を選択するには	11
VFO状態にするには	11
受信するには	12
送信するには	12
システムバンクを切り替えるには (C701のみ)	13
すべての状態を最初に戻すには (オールリセット)	14
設定を最初の状態に戻すには (VFOリセット)	15
各部の名称と動作	16

もっと自由にあつかうために	19
コール周波数(呼出周波数)を使うには	20
コール周波数を変えるには(1)	20
コール周波数を変えるには(2)	21
コール周波数に各種設定を書き込むには	21
周波数ステップを変えるには	22
周波数を1MHz/100kHzステップで変えるには	22
間違っ周波数を変更するのを防ぐには (周波数ロック)	23
周波数ロック中にセレクターを使えるようにするには	23
話しがとぎれるときには	24
表示部のランプを点灯させるには	24
セットモードの機能を簡単に切り替えるには (マイキー)	25
セットモードを交互に呼び出すには	26
バンドの区分を無くすには	26
受信周波数の微調整を行うには (RIT機能) (1200MHz帯のみ)	27
メモリー機能を使うには	29
メモリー機能について	30
メモリーするには	31
メモリーを呼び出すには	32
メモリーを変更するには	32
メモリーを消すには	33
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	33
スプリットメモリーを設定するには	34
メモリーアドレスをチャンネル表示するには	35

スキャン機能を使うには	37
スキャン機能について	38
スキャンのタイプを変更するには	39
1MHz内でスキャンするには (1MHzスキャン)	39
バンドの全域をスキャンするには (オールスキャン)	40
指定した範囲をスキャンするには (プログラムスキャン)	40
メモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャン)	42
指定したメモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャンメモリー)	43
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)	45
トーン周波数をスキャンするには (トーンスケルチスキャン)	46
レピータを使うには	47
レピータ運用について	48
レピータを使うには (オートレピータモード)	48
手動でレピータモードを設定するには	49
レピータ運用時に相手局の 直接波を受信するには (リバース)	49
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには	50
レピータ運用のトーン周波数を変えるには	50

こんな使いかたもできます	53
電池を長くもたせるには (バッテリーセーブ)	54
自動的に電源を切るには (オートパワーオフ)	54
間違っても送信しないためには (PTTロック)	55
ピープ音を鳴らさないようにするには	55
一定以上の強い信号だけを受信するには (RFスケルチ)	56
トーンスケルチを使って	56
トーンエンコーダー／トーンスケルチを使うには	57
トーンスケルチ運用のトーン周波数を変えるには	57
トーンスケルチユニットを取り付けるには (C501/C601のみ)	58

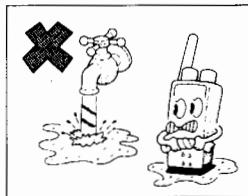
ご参考に	59
故障とお考えになる前に	60
セットモード一覧	61
オプションの紹介	62
アフターサービスについて	62
定 格	63
運用にあたって	64
開局申請の書きかた	66
送信機系統図	68
さくいん	70

はじめに

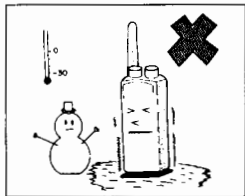
正しくお使いいただくために	4
アンテナを取り付けるには	5
ハンドストラップを取り付けるには	6
ベルトクリップを取り付けるには	6
電池を入れるには	7
点検してください	8

正しくお使いいただくために

故障の原因になりますので、以下のことは行わないでください。



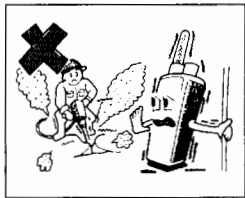
本機は、防滴構造(JIS防滴Ⅱ型)になっています。しかし、水や湿気の多い所では、ご使用にならないでください。また、水がかかった場合は、乾いた布などで、すぐに水分を拭き取ってください。



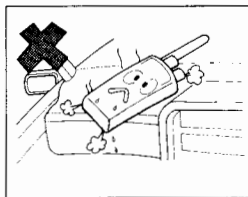
保冷庫の中など、低温の場所では使用しないでください。



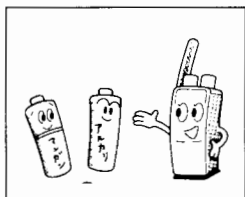
分解や改造は絶対に行わないでください。火災・感電・故障の原因となります。本機内部の調整箇所は、最良の状態に調整されています。手を触れないでください。



振動やホコリの多い所では使用しないでください。



車のダッシュボードの上など、高温になる場所には放置しないでください。

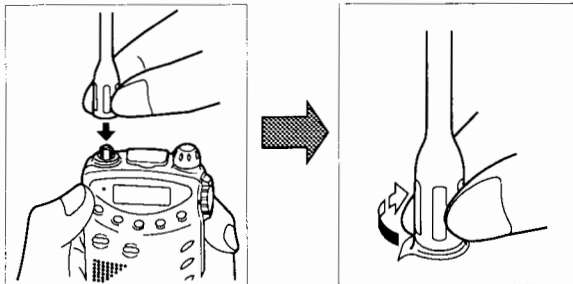


使える電池は単3形のマンガン電池、アルカリ電池、または当社指定のニッカド充電電池(オプション)です。これ以外の電池は使わないでください。

本機の動作電圧は2.2~3.5Vです。

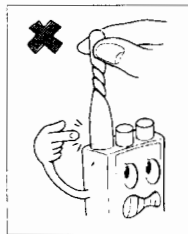
アンテナを取り付けるには

アンテナの根元を持って、本機のアンテナ端子に差し込み、時計方向(右回り)に回して締め付けます。



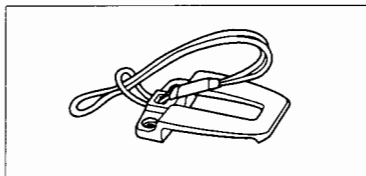
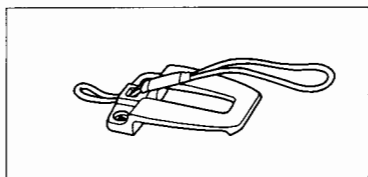
⚠ 注意

- ◆ アンテナの上部を持って、取り付けを行わないでください。
- ◆ アンテナを回し過ぎないでください。
- ◆ アンテナを握って、本機を持ち歩かないでください。
- ◆ アンテナを取り付けずに、送信しないでください。



ハンドストラップを取り付けるには

- 付属のハンドストラップを、下の絵のようにベルトクリップへ取り付けてください。



ベルトクリップを取り付けるには

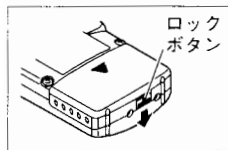


- 1 ハンドストラップをベルトクリップに取り付ける
- 2 付属のビスを使いベルトクリップを本機に取り付ける

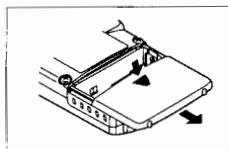
⚠ 注意

- ◆ ベルトクリップを取り付けずに、付属のビスだけを本機に取り付けしないでください。ビスが本機の内部を破損し、故障の原因となります。
- ◆ 付属以外のビスで、ベルトクリップを取り付けしないでください。本機の内部を破損したり、使用中に脱落する恐れがあります。

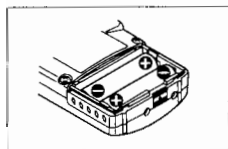
電池を入れるには



1 ロックボタンを下げる



2 電池ブタをスライドせさせて開ける



3 電池の極性を確かめ、電池を2本入れる

4 電池ブタをスライドせさせて閉め、ロックボタンを上げる

⚠ 警告

- ◆単3形のアルカリ乾電池・マンガン乾電池・当社指定のニッカド充電電池CNB401以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ◆使用済みの電池は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。
- ◆乾電池やニッカド充電電池の端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。

⚠ 注意

- ◆電池を交換するときは、電源を切ってください。
- ◆新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となる場合があります。
- ◆電池の極性表示(プラスとマイナスの向き)を確認してから機器内に挿入してください。間違えますと電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となる場合があります。

⚠ お願い

- ◆オプションのニッカド充電電池を使用する場合は、充電してからご使用ください。

点検してください

- お使いになる前には、以下の事確かめてからお使いください。

近くの電子機器に電波障害を与えないか？

近くのテレビ、ラジオに電波妨害を与えないか？
また、受けないか？

無線機の使用が禁止されている場所ではないか？
(航空機内、空港敷地内、新幹線車両内ではないか？)

アンテナは正しく取り付けられているか？

電池は正しく入れられているか？

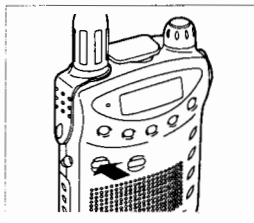
⚠ 注意

- ◆電波障害や電波妨害を与えるときは、それらの機器から離れたところで本機をお使いください。
- ◆万一、煙が出ている、変なおいや音があるなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して、販売店または当社営業所、サービスセンターに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには	10
音量を調整するには	10
バンド(周波数帯)を選択するには	11
VFO状態にするには	11
受信するには	12
送信するには	12
システムバンクを切り替えるには〈C701のみ〉	13
すべての状態を最初に戻すには(オールリセット)	14
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)	15
各部の名称と動作	16

電源を入れるには



- 1 電源を入れるには、本機前面の[PWR]キーを0.3秒以上押す

C501/C701

433.00

C601

1295.00

- 2 ビープ音が鳴り、表示が出たことを確かめる

- 3 電源を切るには、本機前面の[PWR]キーを0.3秒以上押す

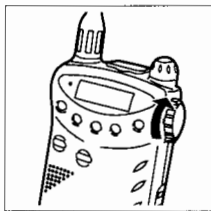
- 4 ビープ音が鳴り、表示が消えたことを確かめる



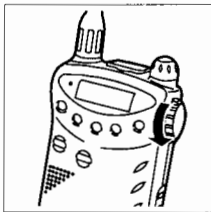
◆C501/C601は、メモリーのバックアップとしてリチウム電池を使用しています。乾電池やニッカド充電電池(オプション)を入れ替えたときに、表示が初期状態に戻り、メモリーの内容が消えているときは、リチウム電池の寿命です。お買い上げになった販売店または当社の各営業所、サービスセンターで電池の交換を行ってください。

◆C701は、メモリーにバックアップ電池の不要なEEP-ROMを使用しています。このため、バックアップ電池等の交換は必要ありません。

音量を調整するには



- 1 音量を大きくするには、音量ツマミを上に戻す(数字が大きくなる方向)



- 2 音量を小さくするには、音量ツマミを下に戻す(数字が小さくなる方向)



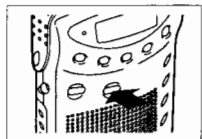
◆他の交信が聞こえるときは、その音を目安に調整してください。他の交信が聞こえないときは、[MONI]キーを押してください。[MONI]キーを押している間、「ザー」という音が聞こえるので、この音を目安に調整してください。(P.24)

⚠ 注意

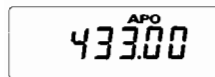
◆イヤホンやヘッドセット(オプション)などを使うときは、音量を下げてからご使用ください。音量が大きすぎ、耳を痛める恐れがあります。

バンド(周波数帯)を選択するには

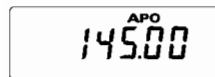
- C501はバンドを切り替えることによって、144MHz帯と430MHz帯の2バンドを運用できます。
- C601はバンドを切り替えることによって、430MHz帯と1200MHz帯の2バンドを運用できます。
- C701はバンドを切り替えることによって、144MHz帯、430MHz帯、および1200MHz帯の3バンドを運用できます。



1 **[BAND]** キーを押す



2 周波数の表示が切り替わったことを確かめる
(**[BAND]** キーを押すたびに、バンドが切り替わります。)



◆各バンドは、次の周波数範囲で送信および受信ができます。

144MHz帯： 144.000 ~ 145.995MHz

430MHz帯： 430.000 ~ 439.995MHz

1200MHz帯： 1260.000 ~ 1299.990MHz

◆本機には、バンド区分を無くす機能(**P26**)があります。この機能をoFに設定すると、ロータリーチャンネルセレクターを回して、他のバンドに移ることができます。

VFO状態にするには

- VFO(Variable Frequency Oscillator)状態とは、ロータリーチャンネルセレクターを使って周波数を変えることができる状態をいいます。お買い上げになったときの状態やリセット直後は、VFO状態です。

1 表示部を確認する



2 Mが表示されているときは、**[V/M]** キーを押す(メモリーモードです。**P32**)

Cが表示されているときは、**[V/M]** キーを押す(コール周波数です。**P20**)

セットモードのときは、**[V/M]** キーを押す(**P61**)

周波数が変化しているときは、**[V/M]** キーを押す(スキャン中です。**P38**)

3 VFO状態に戻ったことを確かめる



◆VFO状態への戻しかたがわからなくなったときは、VFOリセット(**P15**)を行ってみてください。メモリーとコール周波数以外の設定を、お買い上げになったときの状態に戻し、VFO状態になります。

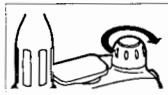
◆メモリーモード(**P32**)のとき、**[E]** キーを押しながら、**[SC]** キーを押すと、呼び出したメモリー周波数のままでVFO状態になります。

◆コール周波数(**P20**)のとき、ロータリーチャンネルセレクターを回すと、呼び出したコール周波数のままでVFO状態になります。

受信するには

- 話したい相手に周波数を合わせ、相手が送信すると受信できます。周波数は、ロータリーチャンネルセレクターを使って合わせます。(本書では、ロータリーチャンネルセレクターを、これ以降セレクターと表記します。)

- 1 VFO状態にし、バンドを選ぶ



- 2 時計方向に回すと周波数が増える



- 3 反時計方向に回すと周波数が減る



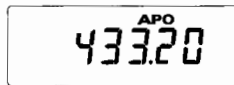
◆ 本機は、クイックエンコーダー方式を採用しています。セレクターを速く回すと、周波数が大きく変化します。

送信するには

- 周波数を合わせた相手と、送信する(PTT)ことで話しができます。

- 1 VFO状態にし、バンドを選ぶ

- 2 話しをしたい相手と、周波数を合わせる




- 3 送信しようとする周波数で、他の人が交信していないことを確かめる

- 4 PTT を押しながら、マイクに向かって話す



システムバンクを切り替えるには

〈C701のみ〉 

- C701は、VFOの状態、メモリー、セットモードなどに設定されている、すべての状態を記憶するメモリーを2つ持っています。このメモリーをシステムバンクといいます。
- この2つのシステムバンクを、それぞれシステム1、システム2といいます。
- システム1とシステム2の各種設定は完全に独立しており、まったく異なった設定をすることができます。

1 [SET] キーを押す

2 セレクターを回し、表示を SyS-1 にする

545-1

3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を SyS-1 から SyS-2 にする
(ピー音がします。)

545-2

4 システム2に切り替わったことを確かめる

433.00

点灯(システム2表示)



◆この機能をシステム1に戻すには、手順3で表示を SyS-2 から SyS-1 にしてください。

◆この機能がシステム2に設定されているときは、100MHz台の左側にドット(.)が点灯します。

◆C701は、電源を入れたときのピーブ音が、システム1とシステム2で異なります。

◆C701は、電源を入れたときに、現在設定されているシステムバンクが、以下のように約0.8秒間表示されます。その後、通常の周波数表示になります。

システム1

システム2

〔 701-1

〔 .701-2

◆オールリセットおよびVFOリセットは、各システムごとに独立しています。すべての設定を初期状態に戻すには、システム1とシステム2の両方で、リセットを行ってください。(P14,15)

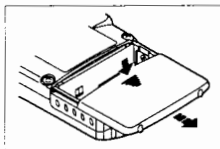
すべての状態を最初に戻すには(オールリセット)

- メモリーの内容もすべて消去し、お買い上げになったときの状態(初期状態)に戻すことができます。これをオールリセットと呼びます。

■C501/C601の場合



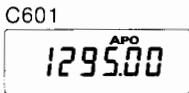
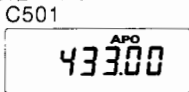
- 1 [PWR] キーを押し、電源を切る



- 2 電池を外す (D7)



- 3 リセットスイッチを押す
4 電池を入れる(電源が入る)
5 表示部が初期状態になったことを確かめる



- ◆C501/C601のリセットスイッチは、何度も押さないでください。繰り返しスイッチを押すと、内蔵のリチウム電池の消耗を早めます。

■C701の場合

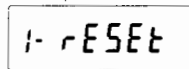


- 1 [PWR] キーを押し、電源を切る

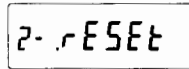


- 2 [F+] キーと [MONI] キーを押しながら、[PWR] キーを押し、電源を入れる

- 3 電源が入り、表示部に以下の表示が出たことを確かめる。

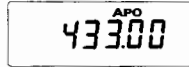


システム1をオールリセットした場合



システム2をオールリセットした場合

- 4 キーから手を離すと、表示部が初期状態になったことを確かめる


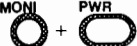


- ◆C701は、現在設定されているシステムバンクのみ、オールリセットが行われます。すべてを初期状態に戻す場合は、システム1とシステム2の両方で、オールリセットを行ってください。

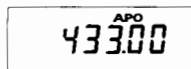
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)

- メモリーとコール周波数以外の設定を、お買い上げになったときの状態(初期状態)に戻すことができます。これをVFOリセットと呼びます。間違った設定をしてしまい、もとの状態に戻せないときなどにご利用ください。

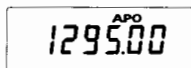
■C501/C601の場合

-  **1** [PWR] キーを押し、電源を切る
-  **2** [MONI] キーを押しながら、[PWR] キーを押し、電源を入れる
- 3** キーから手を離すと、表示部が初期状態になったことを確かめる


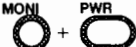
C501



C601

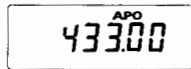


■C701の場合

-  **1** [PWR] キーを押し、電源を切る
-  **2** [MONI] キーを押しながら、[PWR] キーを押し、電源を入れる
- 3** 電源が入り、表示部に以下の表示が出たことを確かめる。

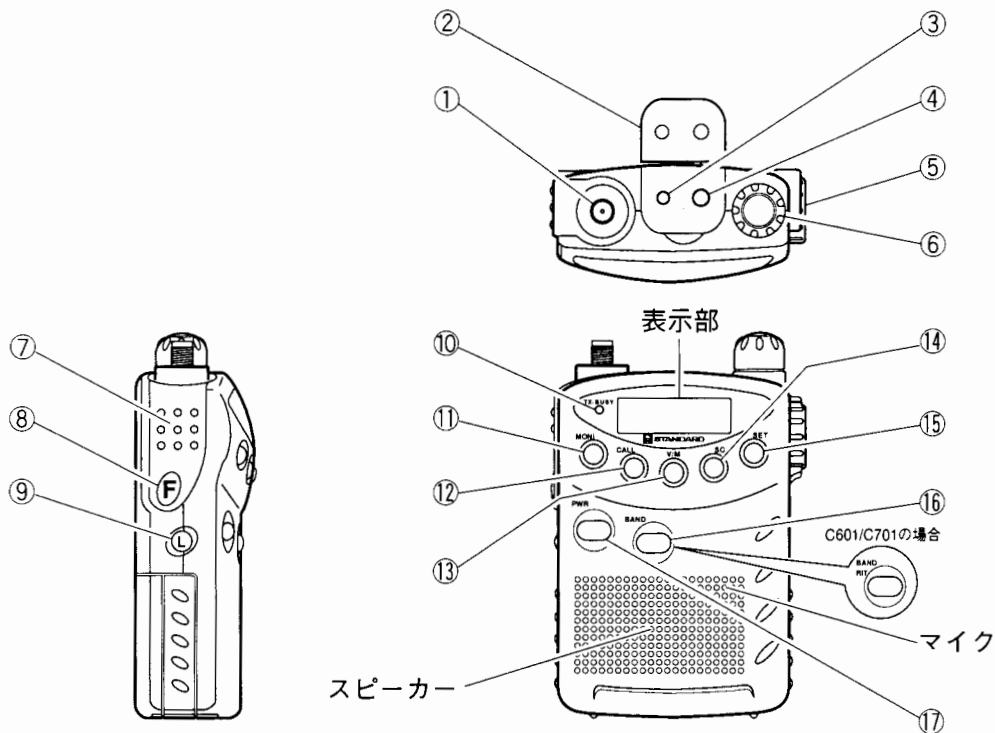
- - - -	システム1をVFOリセットした場合
---------	-------------------

. - - - -	システム2をVFOリセットした場合
-----------	-------------------
- 4** キーから手を離すと、表示部が初期状態になったことを確かめる



- ◆C701は、現在設定されているシステムバンクのみ、VFOリセットが行われます。メモリーとコール周波数以外の設定を、すべて初期状態に戻す場合は、システム1とシステム2の両方で、VFOリセットを行ってください。

各部の名称と動作



① アンテナ接続端子 (SMAタイプ)

② 防水キャップ

マイク端子およびスピーカー端子を使わないときは、必ずこのキャップを閉めてください。

③ M

外部マイクロホン端子
オプションのマイクロホンを接続します。

④ S

外部スピーカー端子
オプションのスピーカーを接続します。

⑤ 音量ツマミ

このツマミを回し、音量を調整します。

⑥ ロータリーチャンネルセレクター

このツマミを回し、周波数を変更します。
各種の設定を行うときに、設定内容を変更します。
本書では、セレクターと表記します。

⑦ PTTスイッチ

このスイッチを押している間、送信します。

⑧ F

このキーを押している間、ファンクションモードになり、各種の特別機能が設定できます。

⑨ L

このキーを押すと表示部のランプが約5秒間点灯します。
F：表示部のランプの連続点灯

⑩ TX/BUSY

送信を行うと、赤色に点灯します。受信したときは、緑色に点灯します。

⑪ MONI

このキーを押している間、スケルチを開くことができます。
F：スケルチを開いたままの状態にする

⑫ CALL

コール周波数(呼び出し周波数)の呼び出し

⑬ V/M

VFO状態とメモリーモードの切り替え
F：メモリーの書き込み設定
F：メモリーモード時にメモリー書き換え

⑭ SC

スキヤンの開始および解除
コール周波数時、プログラムスキヤン設定
F：オールスキヤンの開始および解除

⑮ SET

セットモードの呼び出しおよび解除
F：マイキーに登録したセットモード機能の切り替え
(初期状態では、周波数ロックが設定されています。)

⑯ BAND (C601/C701：BAND/RIT)

バンド(周波数帯)の切り替え
F：RIT機能の設定および解除 (1200MHz帯のみ)

⑰ PWR

このキーを押し、電源の入/切を行います。

表示部



もっと自由にあつかうために

コール周波数(呼出周波数)を使うには	20
コール周波数を変えるには(1)	20
コール周波数を変えるには(2)	21
コール周波数に各種設定を書き込むには	21
周波数ステップを変えるには	22
周波数を1MHz/100kHzステップで変えるには	22
間違って周波数を変更するのを防ぐには(周波数ロック)	23
周波数ロック中にセレクターを使えるようにするには	23
話しがとぎれるときは	24
表示部のランプを点灯させるには	24
セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)	25
セットモードを交互に呼び出すには	26
バンドの区分を無くすには	26
受信周波数の微調整を行うには(RIT機能)〈1200MHz帯のみ〉	27

コール周波数(呼出周波数)を使うには

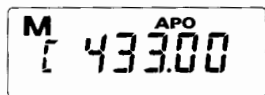
- コール周波数(呼出周波数)は、特定または不特定多数の相手局を呼び出す場合に使用します。

1 VFO状態にし、バンドを選ぶ



2 [CALL] キーを押す

3 表示部にCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



4 もとの表示に戻るには、[CALL] キーを押す
呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、セレクターを回す



- ◆各バンドのコール周波数(呼出周波数)は、次のとおりです。

144MHz帯： 145.00MHz

430MHz帯： 433.00MHz

1200MHz帯： 1295.00MHz

- ◆手順3の状態では、[BAND] キーを押すと、各バンドのコール周波数を呼び出すことができます。

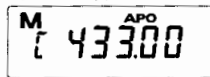
コール周波数を変えるには(1)

- コール周波数を違う周波数に変更できません。

1 VFO状態にし、バンドを選ぶ



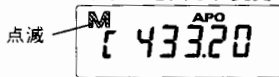
2 [CALL] キーを押す、コール周波数を呼び出す



3 [F+] キーを押しながら、[V/M] キーを押す、表示部のMが点滅することを確認する



4 セレクターを回し、変更したい周波数にする



5 [F+] キーを押しながら、[V/M] キーを押す(表示部のMが点滅から点灯に変わり、コール周波数に変更されました。)



6 もとの表示に戻るには、[CALL] キーを押す
変更したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、セレクターを回す



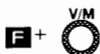
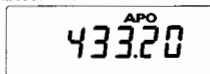
- ◆手順4の状態では、周波数を一時的に変更し、送信・受信することができます。コール周波数を一時的に変えることをコールシフトと呼びます。コールシフトからVFO状態に戻るには、[CALL] キーを押してください。

コール周波数を変えるには(2)

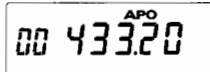
- 1 VFO状態にし、バンドを選ぶ



- 2 セレクターを回し、コール周波数にしたい周波数にする



- 3 [F] キーを押しながら、[V/M] キーを押す



- 4 [CALL] キーを押す
(「ピー」音がし、コール周波数に変更されました。)



- 5 [CALL] キーを押し、コール周波数に変更されたことを確認する



- 6 もとの表示に戻るには、[CALL] キーを押す
変更したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、セレクターを回す



◆この変更方法はメモリーに空があるときに使えます (P.30)。メモリーに空がないと、手順3で「ブツ」音がします。このときは、(1)の方法で変更してください。

コール周波数に各種設定を書き込むには

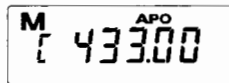
- コール周波数に、各種の設定を書き込むことができます。設定できるのは、レピータモード、オフセット周波数、トーンエンコーダーモード、トーンスケルチモード、トーンスケルチ用トーン周波数です。



- 1 VFO状態にし、バンドを選ぶ

- 2 [CALL] キーを押す

- 3 表示部にCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



- 4 各種の設定を行う

レピータモード (P.49)

オフセット周波数 (P.50)

トーンエンコーダーモード (P.57)

トーンスケルチモード (P.57)

トーンスケルチ用トーン周波数 (P.57)

- 5 もとの表示に戻るには、[CALL] キーを押す

呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、セレクターを回す



◆C501/C601でトーンスケルチ用トーン周波数を設定するには、オプションのトーンスケルチユニット CTN115が必要です。

◆レピータ用トーン周波数を書き込むことはできません。レピータ運用のトーン周波数は、VFO状態の設定と共通です。

周波数ステップを変えるには

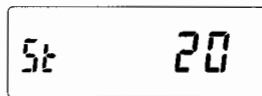
- 初期状態では、セレクターを回すと周波数は20kHzのステップで変わります。この周波数のステップを変えることができます。



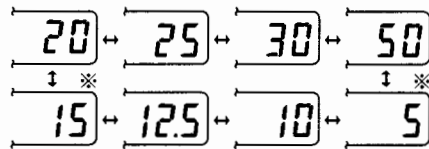
1 バンドを選び、**[SET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示を St 20 にする



3 **[F+]** キーを押しながら、セレクターを回し、ステップ周波数を変更する



※1200MHz帯では表示されません。



4 終了するには、**[SET]** キーを押す



- ◆各バンドごとに設定できます。
- ◆1200MHz帯で、5kHzと15kHzを設定することはできません。

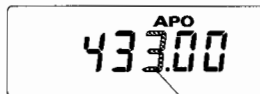
周波数を1MHz/100kHzステップで変えるには

- 周波数のステップを1MHzで変えることができます。また、このステップを100kHzに変えることができます。

ステップを1MHzで変えるには



1 **[F+]** キーを押しながら、セレクターを回す



変化します

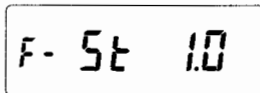
ステップを100kHzで変えるには



1 **[SET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示を F-St 1.0 にする



3 **[F+]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を1.0から0.1にする



4 **[SET]** キーを押す



5 **[F+]** キーを押しながら、セレクターを回し、100kHzステップで周波数が変わることを確かめる

間違っって周波数を変更するのを 防ぐには(周波数ロック)

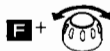
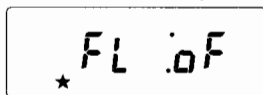
- キーやセレクターを間違っって操作し、周波数などが変わってしまうのを防ぐ機能です。この機能が働いているとき操作できるキーは、**[PWR]**、**[L]**、**[SET]**、**[MONI]**です。



1 **[SET]** キーを押す



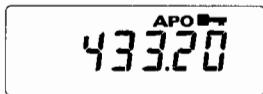
2 セレクターを回し、表示を FL :oF にする



3 **[F]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から on にする



4 **[SET]** キーを押し、表示部に鍵のマークが表示されていることを確かめる



◆この機能を解除するには、手順3で表示を on から oF にしてください。

◆初期状態では、この機能はマイキー(D25)に登録されています。**[F]** キーを押しながら、**[SET]** キーを押すことで、この機能を切り替えることができます。

もっと自由にあつかうために

周波数ロック中にセレクターを 使えるようにするには

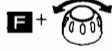
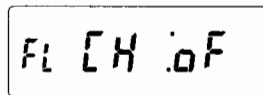
- 初期状態では、周波数ロック中はセレクターの操作ができません。しかし、この機能を使うと操作できるようになります。



1 **[SET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示を FLCH :oF にする



3 **[F]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から on にする



4 もとの表示に戻るには、**[SET]** キーを押す



◆この機能を解除するには、手順3で表示を on から oF にしてください。

◆周波数ロックが設定されている状態では、変更できません。

話しがとぎれるときは

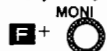
- スケルチが働いていると、弱い信号を受けたときに、音声が出なかったり、途切れたりします。このようにときに、スケルチを一時的に開くことができます。

スケルチを開くには



[MONI] キーを押す

スケルチを開いたままにするには



1 [F] キーを押しながら、[MONI] キーを押す



2 この動作を解除するには、[MONI] キーを押す



- ◆信号を受けていないときは、[MONI] キーを押すと「ザー」という音ができます。この音を消すのがスケルチです。本機では、オートスケルチ機能があり、この音を消しています。信号を受けたりして、音声が聞こえることを「スケルチが開く」といいます。
- ◆本機には、RFスケルチ機能があり、一定以上の強い信号を受けたときだけスケルチを開かせることができます。(P.56)
- ◆レピータモードのときは、[MONI] キーを押している間、リバース状態でスケルチが開きます。(P.49)

表示部のランプを点灯させるには

- 暗い場所などで使うときに、表示部のランプを点灯させることができます。この時、ランプはキー操作が終わった後、5秒後に消灯します。また、ランプを点灯させたままにすることもできます。

ランプを点灯させるには



[L] キーを押す

ランプを点灯させたままにするには



1 [F] キーを押しながら、[L] キーを押す




2 この動作を解除するには、[F] キーを押しながら[L] キーを押す

セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)






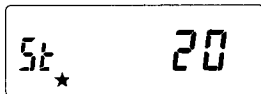
- **[SET]** キーによく使うセットモードを登録することができます。初期状態では、周波数ロック(P23)が登録されています。


マイキーでセットモードを切り換えるには

F +  **[F]** キーを押しながら、**[SET]** キーを押す

マイキーに登録するには

-  **1** **[SET]** キーを押す
-  **2** セレクターを回し、登録したいセットモードを表示する
- F** +  **3** **[F]** キーを押しながら、**[SET]** キーを押す
(登録されると「ビー」音がし、★が点灯します。)



-  **4** もとの表示に戻るには、**[SET]** キーを押す



- ◆一部登録できないセットモードがあります。登録できるセットモードは、セットモード一覧(P61)を参照してください。登録できない、または既に登録されているセットモードを登録しようとする時、手順3で「ブッ」音がします。
- ◆VFOリセットおよびオールリセットを行うと、周波数ロックが登録された状態に戻ります。
- ◆セットモードのとき、★が点灯する機能が、現在マイキーに登録されている機能です。

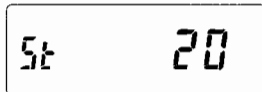
セットモードを交互に呼び出すには

- セットモードでは、最後に選択した機能を2つ記憶しています。この機能を使うと、よく使うセットモードを、セレクターを回さずに交互に呼び出すことができます。

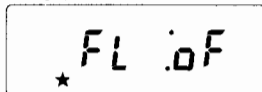
セットモードを交互に呼び出すには



- 1 [SET] キーを押し、セットモードを呼び出す(初期状態では、周波数ステップが設定されています。)



- 2 [F] キーを押しながら、[CALL] キーを押す(初期状態では、周波数ロックが設定されています。)



- 3 もう一度 [F] キーを押しながら、[CALL] キーを押すと、手順1の状態に戻ります。



- ◆手順1,2で、よく使うセットモードを設定しておくとう便利です。

バンドの区分を無くすには

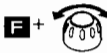
- 初期状態では、セレクターなどを使って周波数を変更するとき、選んだバンドの範囲でしか行えません。しかし、この機能を使うと、バンドの区分を無くすことができます。バンドを選び、セレクターを回し続け、周波数がバンドの端に来ると、周波数は次のバンドに移ります。



- 1 [SET] キーを押す



- 2 セレクターを回し、表示を bnd:on にする



- 3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を on から oF にする



- 4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す




- ◆この機能を解除するには、手順3で表示を oF から on にしてください。
- ◆[BAND] キーを押すと、表示されているバンドから他のバンドに移ります。
- ◆この機能が oF に設定されているとき、オールスキャン(D40)を行うと、バンドを越えてスキャンをします。
- ◆この機能が oF に設定されているとき、バンドの異なる範囲を指定して、プログラムスキャン(D40)を行うと、バンドを越えてスキャンします。

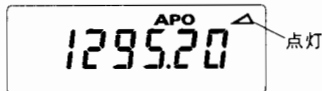
受信周波数の微調整を行うには (RIT機能)


〈1200MHz帯のみ〉

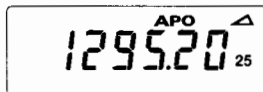
- 1200MHz帯で、相手局と周波数がズレた場合、音声が歪んだり、雑音が入ることがあります。このとき、本機の受信周波数を微調整し、周波数を相手局に合わせることができます。

- 1 バンドが1200MHz帯が確かめる
- 2 話しをしたい相手と、周波数を合わせる

- F+**  **3** **[F]** キーを押しながら、**[BAND]** キーを押す



- F+**  **4** **[F]** キーを押しながら、セレクターを回し、受信周波数が2.5kHzステップで変わることを確かめる



- ◆この機能は、1200MHz帯のみ設定できます。
- ◆この機能を解除するには、もう一度手順3を行ってください。解除すると、手順2の周波数に戻ります。
- ◆周波数の微調整の範囲は、2.5kHzステップで、最大±10kHzまでです。
- ◆手順2の周波数に戻ると「ポッ」音がします。また、微調整範囲の上限・下限に来ると「ブツ」音がします。
- ◆この機能が設定されているときは、周波数を1MHz/100kHzステップで変える機能(D22)は働きません。

もっと自由にあつかうために

メモリー機能を使うには

メモリー機能について	30
メモリーするには	31
メモリーを呼び出すには	32
メモリーを変更するには	32
メモリーを消すには	33
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	33
スプリットメモリーを設定するには	34
メモリーアドレスをチャンネル表示にするには	35

メモリー機能について

- よく使う周波数をメモリーに書き込むことができます。
- C501/C601は、バンドの区別なく、60波の周波数を書き込むことができます。
C701は、バンドの区別なく、1つのシステムバンク(D13)に100波の周波数を書き込むことができます。システムバンクは2つあり、合計200波の周波数を書き込むことができます。
- メモリーに書き込みを行っているときや、メモリーを呼び出しているときを、メモリーモードといいます。
- 周波数を書き込んだメモリーの番号を、メモリーアドレスといいます。メモリーアドレスは、C501/C601が00~59まで、C701が00~99まであります。
- 各メモリーごとに、次の内容を書き込むことができます。
(各メモリーに書き込める内容は、スプリットメモリー(D34)の設定により、一部変わります。)

書き込める内容	スプリットメモリーの設定	dUP: oF	dUP: on
受信周波数		○	○
送信周波数		×	○
レピータモード		○	×
オフセット周波数		○	×
トーンエンコーダー / トーンスケルチモード ※		○	○
トーンスケルチ用トーン周波数 ※		○	○

※ C501/C601は、オプションのトーンスケルチユニットCTN115が必要です。



- ◆C501/C601は、メモリーのバックアップとしてリチウム電池を使用しています。乾電池やニッカド充電電池(オプション)を入れ替えたときに、表示が初期状態に戻り、メモリーの内容が消えているときは、リチウム電池の寿命です。お買い上げになった販売店または当社の各営業所、サービスセンターで電池の交換を行ってください。
- ◆C701は、メモリーにバックアップ電池の不要なEEP-ROMを使用しています。このため、バックアップ電池等の交換は必要ありません。

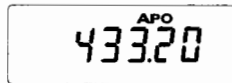
メモリーするには

- よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

1 VFO状態にし、バンドを選ぶ

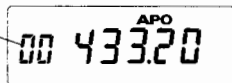


2 メモリーに書き込みたい周波数にする

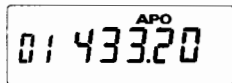


3 [F] キーを押しながら、[V/M] キーを押す

メモリーアドレス



4 セレクターを回し、書き込みたいメモリーアドレスにする



5 [F] キーを押しながら、[V/M] キーを押す
 (「ピー」音がし、メモリーに書き込まれました。)

6 VFO状態に戻ったことを確かめる



◆手順2の後で、[F] キーを押しながら、[V/M] キーを2回押すと、最後に呼び出したアドレス以降で、空いている一番小さいアドレスに、自動的に書き込みを行います。

◆手順3でメモリーに空がないと、「ブツ」音がします。このときは、「メモリーを変更するには」(P.32)および「メモリーを消すには」(P.33)の手順に従って、不要なメモリーを変更するか、消してください。

◆手順3で表示されるメモリーアドレスは、最後に呼び出したアドレス以降で、空いている一番小さいアドレスです。手順4で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていないアドレスのみです。

◆手順3で[F] キーを押しながら、セレクターを回すと、メモリーアドレスの10の桁を変更することができます。

(1200MHz帯で、RIT機能(P.27)が設定されているときは、使用できません。)

◆手順3を行うと、VFO状態に戻るまで周波数は変更できません。途中でVFO状態に戻るには、[V/M] キーを押してください。

メモリーを呼び出すには

- 書き込まれている周波数を呼び出します。

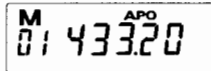
1 VFO状態にする



- 2 **[V/M]** キーを押す



- 3 セレクターを回し、呼び出すメモリーアドレスにする
(これでメモリーが呼び出されました。)



- 4 もとの表示に戻るには、**[V/M]** キーを押す

呼び出したメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[F]** キーを押しながら、**[SC]** キーを押す



- ◆メモリーに何も書き込まれていないときは、手順2で**[V/M]** キーを押すと「ブツ」音がします。
- ◆手順3で呼び出されるメモリーは、メモリーされているアドレスだけです。
- ◆手順3で**[F]** キーを押しながら、セレクターを回すと、メモリーアドレスの10の桁を変更することができます。(1200MHz帯で、RIT機能(▶27)が設定されているときは、使用できません。)
- ◆メモリー呼び出し状態の表示を、周波数表示からアドレス番号表示に変更することができます。(▶35)

メモリーを変更するには

- 書き込まれている周波数を別の周波数に変えることができます。

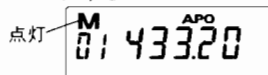
1 VFO状態にする



- 2 **[V/M]** キーを押す



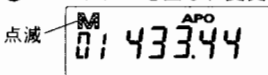
- 3 セレクターを回し、変更するメモリーアドレスにする



- 4 **[F]** キーを押しながら、**[V/M]** キーを押す



- 5 セレクターを回し、変更したい周波数にする



- 6 **[F]** キーを押しながら、**[V/M]** キーを押す
(表示部のM点滅から点灯に変わり、メモリーが変更されました。)



- 7 もとの表示に戻るには、**[V/M]** キーを押す



- 変更したメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[F]** キーを押しながら、**[SC]** キーを押す



- ◆手順5の状態でも周波数を一時的に変更し、送信・受信することができます。メモリーの周波数を一時的に変えることを、メモリーシフトと呼びます。メモリーを変更せずにVFO状態に戻るには、**[V/M]** キーを押してください。

メモリーを消すには



- 書き込まれている周波数をメモリーアドレスごとに消すことができます。

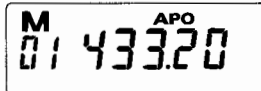
1 VFO状態にする



2 **[V/M]** キーを押す



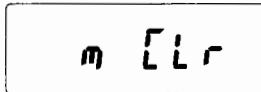
3 セクターを回し、消したいメモリーアドレスにする



4 **[SET]** キーを押す



5 セクターを回し、表示を m CLr にする



6 **[F+]** キーを押しながら、セクターを回す
（「ピー」音がし、メモリーが消されました。）

7 VFO状態に戻ったことを確かめる



- ◆手順6を行うと、消えたメモリーを復活させることはできません。メモリーを消さない場合は、手順6を行う前に**[SET]** キーを押してください。

メモリー周波数に各種設定を書き込むには

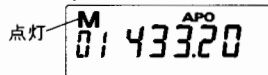
- 書き込まれている周波数に、各種の設定を書き込むことができます。



1 VFO状態にする

2 **[V/M]** キーを押す

3 セクターを回し、設定を行うメモリーアドレスにする



4 **[F+]** キーを押しながら、**[V/M]** キーを押す

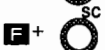
5 各種の設定をする
レピータモード (**P49**)
オフセット周波数 (**P50**)
トーンエンコーダーモード (**P57**)
トーンスケルチモード (**P57**)
トーンスケルチ用トーン周波数 (**P57**)



6 **[F+]** キーを押しながら、**[V/M]** キーを押す
（表示部のM点滅から点灯に変わり、メモリーの設定が変更されました。）



7 もとの表示に戻るには、**[V/M]** キーを押す



呼び出したメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[F+]** キーを押しながら、**[SC]** キーを押す



- ◆C501/C601で、トーンスケルチ用トーン周波数を設定するには、オプションのトーンスケルチユニットCTN115が必要です。

- ◆レピータ用トーン周波数を書き込むことはできません。レピータ用トーン周波数は、VFO状態の設定と共通です。

- ◆手順5の状態の設定を一時的に変更し、操作することができます。メモリーを変更せずにVFO状態に戻るには、**[V/M]** キーを押してください。

スプリットメモリーを設定するには



- オフセット周波数の代わりに、送信周波数と受信周波数を別々に書き込むことができます。



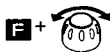
- 1 VFO状態にする
- 2 **V/M** キーを押す
- 3 セレクターを回し、設定を行うメモリーアドレスにする

M APO
01 433.20



- 4 **SET** キーを押す
- 5 セレクターを回し、表示を dUP:oF にする

dUP:oF



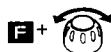
- 6 **F+** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から、on または on+ にする (dUP:on+ に設定すると、送信時にレピータ用トーンが送出されます。)

x dUP:on



- 7 セレクターを左(反時計方向)に1ステップ回し、SP 433.20(手順3のときの周波数)になっていることを確認する。

SP 433.20



- 8 **F+** キーを押しながら、セレクターを回し、送信周波数を設定する

SP 435.20



- 9 **SET** キーを押す
(これでメモリーには受信:433.20MHz、送信:435.20MHzが書き込まれました。)

Mx APO
01 433.20

- 10 **PTT** を押し、設定した周波数で送信することを確かめる



- ◆ この設定は、各メモリーごとに行うことができます。
- ◆ 手順8で**BAND**キーを押すと、バンドを変更することができます。これにより、バンド間で「たすきがけ運用」ができます。
- ◆ スプリットメモリーを解除すると、送信周波数は受信周波数と同一になります。
- ◆ スプリットメモリーが設定されているメモリーアドレスで、レピータモード(**P**49)をonに設定すると、スプリットメモリーは自動的に解除されます。
- ◆ レピータモード(**P**49)がonに設定されているメモリーアドレスで、スプリットメモリーを設定すると、レピータモードは自動的に解除されます。
- ◆ 手順8で、周波数を1MHz/100kHzステップで変える機能(**P**22)は使えません。



メモリーアドレスをチャンネル表示にするには

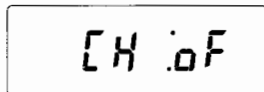
- メモリーアドレスは、初期状態では表示部にMxxと表示されますが(P.32)、チャンネル表示として、周波数が表示されている部分に表示することができます。



1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を CH :oF にする



3 [F+] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から on にする

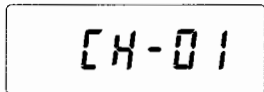


4 終了するには、[SET] キーを押す

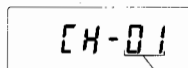
5 メモリーモードまたはコール周波数にする

6 表示が周波数表示からチャンネル表示になったことを確かめる

メモリーアドレス 01 のとき

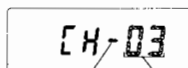


◆表示例



メモリーアドレス01のとき

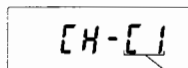
メモリーアドレス



メモリースキャンのとき

点滅

スキャンします



コール周波数のとき
(C501の430MHz帯の場合)

※表示は、機種および周波数帯により異なります。

C501	430MHz帯 :	C1
	144MHz帯 :	C2
C601	1200MHz帯 :	C1
	430MHz帯 :	C2
C701	1200MHz帯 :	C1
	430MHz帯 :	C2
	144MHz帯 :	C3

◆この機能を解除するには、手順3で表示を on から oF にしてください。

◆メモリーアドレスの番号と、チャンネル表示の番号は、同一の番号です。

◆この機能を on に設定すると、「コール周波数を変えるには(1)」(P.20)と「メモリーを変更するには」(P.32)を行うことはできません。

メモリー機能を使うには

スキャン機能を使うには

スキャン機能について	38
スキャンのタイプを変更するには	39
1MHz内でスキャンするには (1MHzスキャン)	39
バンドの全域をスキャンするには (オールスキャン)	40
指定した範囲をスキャンするには (プログラムスキャン)	40
メモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャン)	42
指定したメモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャンメモリー)	43
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)	45
トーン周波数をスキャンするには (トーンスケルチスキャン)	46

スキャン機能について

- この機能は、自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出すものです。
- この機能には、次の7種類の方法があり、より早く信号を探し出すことができます。

1 MHz スキャン

周波数の1 MHz台は越えずにスキャンします。

オールスキャン

バンドの全域をスキャンします。

プログラムスキャン

指定した範囲をスキャンします。

メモリスキャン

メモリーしている周波数をスキャンします。

メモリスキャンメモリー

指定したメモリーをスキャンします。

ブロックメモリスキャン

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリーアドレスの10の桁を1つのブロックとします。

トーンスケルチスキャン

トーン周波数をスキャンします。トーン周波数が一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。

(C501/C601で、このスキャンを行うには、トーンスケルチユニットCTN115(オプション)が必要です。)

- スキャンの止まりかたには、次の3種類があります。(P.39)

ポーズスキャンタイプ

信号を受けるとスキャンは止まります。

信号が無くなるか、信号を受けていても約5秒経過すると、スキャンを再開します。

ビジースキャンタイプ

信号を受けている間、スキャンは止まり続けます。

信号が無くなると、約1.2秒後にスキャンを再開します。

ホールドスキャンタイプ

信号を受けると、スキャンは止まります。また、信号が無くなっても、スキャンは止まり続けます。

スキャンを再開するには、セレクターを回します。



◆1MHzスキャン、オールスキャンおよびプログラムスキャンは、周波数ステップ(D.22)に設定されているステップでスキャンします。ステップを変えるときは、周波数ステップを変更してください。

◆スキャン停止中にセレクターを回すと、強制的にスキャンを再開させることができます。

◆スキャン中およびスキャン停止中、セレクターを回す方向により、スキャンの方向を変えることができます。

スキャンのタイプを変更するには

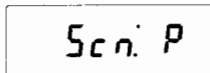
- スキャンのタイプは、次の手順で変更できます。



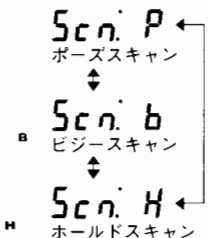
1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を Scn: P にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、スキャンのタイプを選ぶ



4 終了するには、[SET] キーを押す



- ◆ 初期状態では、ポーズスキャンに設定されています。
- ◆ ビジースキャンを選んだときは、Bが表示されます。ホールドスキャンを選んだときは、Hが表示されます。ポーズスキャンを選んだときは、何も表示されません。
- ◆ この設定は、すべてのスキャンに共通です。

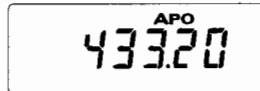
1MHz内でスキャンするには (1MHzスキャン)

- その表示されている周波数の1MHz台を越えずにスキャンします。レピータバンドをスキャンするときなどに便利です。

1 VFO状態にし、バンドを選ぶ

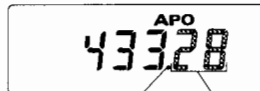


2 スキャンを始めたい周波数にする



3 [SC] キーを押す

4 100kHz台以下がスキャンしていることを確かめる



5 終了するには、[SC] キーを押す




- ◆ このスキャンを行っているとき、[F] キーを押しながらセレクターを回すと、スキャンを停止させずに、MHz台を変更することができます。ただし、バンド区分を無くす機能(D26)をoFに設定している場合、C701はバンドを変更することができますが、C501/C601はバンドを変更することはできません。

スキャン機能を使うには

バンドの全域をスキャンするには (オールスキャン)


●バンドの全域をスキャンします。


1 VFO状態にし、バンドを選ぶ

F +  2 **F** キーを押しながら、**SC** キーを押す

3 スキャンしていることを確かめる



 4 終了するには、**SC** キーを押す




 ◆このスキャンを行っているとき、**F** キーを押しながらセレクターを回すと、スキャンを停止させずに、MHz台を変更することができます。

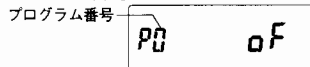
◆バンドの区分を無くす機能(D26)が oF に設定されていると、初めに選んだバンドを越えてスキャンします。C501/C601の場合は2バンド全域を、C701の場合は3バンド全域をスキャンします。


指定した範囲をスキャンするには (プログラムスキャン)

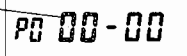
●メモリーされている周波数の中から、スキャンを始める周波数と終わる周波数を指定し、その間をスキャンします。プログラムは、10組まで指定できます。


メモリーアドレスを指定・変更するには

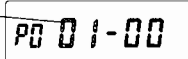
-  1 **CALL** キーを押し、コール周波数にする
-  2 **SC** キーを押す
(メモリーがすべて空のときは「ブツ」音がします。)
-  3 セレクターを回し、スキャンを指定するプログラム番号にする





F +  4 **F** キーを押しながら、**VM** キーを押す

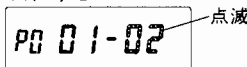
点滅 


 5 セレクターを回し、スキャンを始めるメモリーアドレスにする


点滅 

F +  6 **F** キーを押しながら、**VM** キーを押す

 7 セレクターを回し、スキャンを終わるメモリーアドレスにする



F +  8 **F** キーを押しながら、**VM** キーを押す

 9 終了するには、**VM** キーを押す

スキャンを始めるには



1 [CALL] キーを押し、コール周波数にする

2 [SC] キーを押す

PD 01-02



3 セレクターを回し、スキャンを始めるプログラム番号にする

P1 03-04



4 [SC] キーを押し、スキャンを始める

5 終了するには、[V/M] キーを押す



◆スキャンは、周波数の低いほうから高いほうへ行きます。

◆手順2,3で、[F] キーを押しながら、[SC] キーを押すと、キーを押している間プログラムスキャンの範囲を確認することができます。(キーを押すたびに、交互に表示されます。)

始まる周波数

L 145.20

終わる周波数

H 433.20

◆プログラムスキャンに指定されているメモリーアドレスの周波数を変更すると、変更された内容でスキャンします。

◆バンドの異なる範囲を指定した場合、バンド区分を無くす機能(D-26)の設定により、スキャンの動作が変わります。

動作例：145.20MHzと433.20MHzをプログラムした場合。

●oFのとき

→145.20 ↔ 145.98, 430.00 ↔ 433.20←

(バンドを越えてスキャンします。)

●onのとき、セレクターを右(時計方向)に回す

→145.20 → 145.98←

(指定した低い側の周波数から、同じバンドの上限までをスキャンします。)

●onのとき、セレクターを左(反時計方向)に回す

←430.00 ← 433.20←

(指定した高い側の周波数から、同じバンドの下限までをスキャンします。)

プログラムの内容を消すには



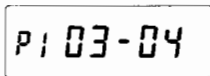
1 [CALL] キーを押し、コール周波数にする



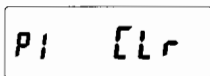
2 [SC] キーを押す



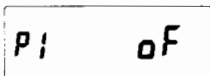
3 セレクターを回し、消したいプログラム番号にする



4 [SET] キーを押し、P1:Clr を表示させる



5 [F+] キーを押しながら、セレクターを回す
 (「ピー」音がして、消去されました。)



◆組になっているメモリアドレスの一方を消すと、プログラムの内容も消えます。

メモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャン)

●メモリーされている周波数を、すべてスキャンします。

1 VFO状態にする

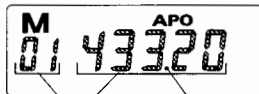


2 [V/M] キーを押し、メモリーモードにする



3 [SC] キーを押す

4 スキャンが始まることを確かめる



スキャンします 点滅



5 終了するには、[SC] キーを押す



6 もとのVFO状態に戻るには、[V/M] キーを押す



◆手順2でメモリーがすべて空のときは、「ブツ」音がし、メモリーモードになりません。

指定したメモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャンメモリー）



●スキャンしたいメモリーを指定してスキャンします。

メモリーアドレスを指定するには

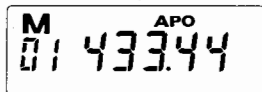
1 VFO状態にする



2 **[V/M]** キーを押し、メモリーモードにする



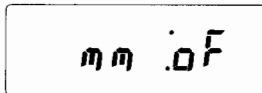
3 セレクターを回し、スキャンしたいメモリーアドレスにする



4 **[SET]** キーを押す



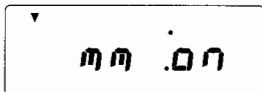
5 セレクターを回し、表示を mm :oF にする



[F]+

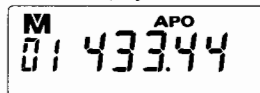


6 **[F]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から on にする



7 **[SET]** キーを押す

8 Mの上に▼が表示されることを確かめる



9 他のメモリーを指定するときは、手順3から5と同じ操作を行う



10 終了するには、**[V/M]** キーを押す

スキャンを始めるには

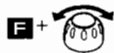
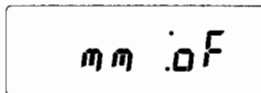
1 VFO状態にする



2 [SET] キーを押す



3 セレクターを回し表示を mm :oF にする

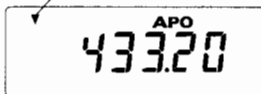


4 [F+] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から on にする

5 [SET] キーを押す



6 ▼が表示されることを確かめる
点灯

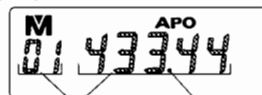


7 [VM] キーを押し、メモリーモードにする



8 [SC] キーを押す

9 指定したメモリーのスキャンが始まることを確かめる



スキャンします 点滅



10 終了するには、[SC] キーを押す



11 もとのVFO状態に戻るには、[VM] キーを押す



◆メモリスキャンメモリーを解除するには、手順4で表示を on から oF にします。

◆C501/C601で、メモリスキャンメモリーが指定されているメモリーが無いときは、手順4で「ブツ」音がし、onにできません。



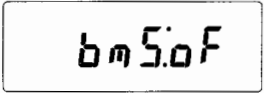


C701で、メモリスキャンメモリーが指定されているメモリーが無いときは、手順8で「ブツ」音がし、スキャンは始まりません。

メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリスキャン)







- メモリスキャンをブロック単位で行います。
- ブロックとは、メモリーアドレスの10の桁を1つのブロックとし、次のようにわかれています。

C501/C601	C701	
M00 ~ M09	M00 ~ M09	M60 ~ M69
M10 ~ M19	M10 ~ M19	M70 ~ M79
M20 ~ M29	M20 ~ M29	M80 ~ M89
M30 ~ M39	M30 ~ M39	M90 ~ M99
M40 ~ M49	M40 ~ M49	
M50 ~ M59	M50 ~ M59	

ブロックメモリスキャンの準備

-  **1** [SET] キーを押す
-  **2** セレクターを回し、表示を **bmS:of** にする

-  **3** [F+] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を of から on にする
-  **4** [SET] キーを押す

スキャンするには

-  **1** [V/M] キーを押し、メモリーモードにする
-  **2** セレクターを回し、スキャンしたいブロックのメモリーを呼び出す
-  **3** [S/C] キーを押し、ブロックメモリスキャンが始まることを確かめる

 スキャンします 点滅
-  **4** 終了するには、[S/C] キーを押す
-  **5** もとのVFO状態に戻るには、[V/M] キーを押す

- ◆ブロックメモリスキャン中に、[F+] キーを押しながら、セレクターを回すと、ブロックを変更できます。
- ◆ブロックメモリスキャン中に、「ブロックメモリスキャンの準備」の手順を行うことで、ブロックメモリスキャンとメモリスキャンを切り替えることができます。
- ◆ブロックメモリスキャンにおいて、メモリスキャンメモリー (p.43) を行うことができます。

トーン周波数をスキャンするには(トーンスケルチスキャン)



- トーン周波数をスキャンします。受信周波数は変わりません。
- C501/C601でこのスキャンを行うには、オプションのトーンスケルチユニットCTN115が必要です。

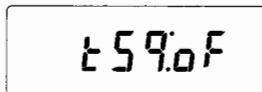
1 スキャンを行う周波数にする



2 [SET] キーを押す



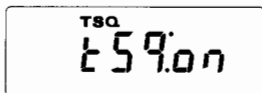
3 セレクターを回し、表示を t59.0F にする



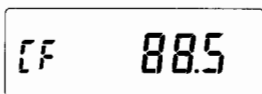
F+



4 [F+] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から TSQ on にする

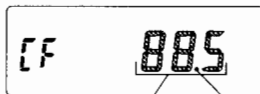


5 セレクターを回し、表示を CF 88.5 にする



6 [SC] キーを押す

7 スキャンが始まることを確かめる



スキャンします 点滅



8 終了するには、[SC] キーを押す



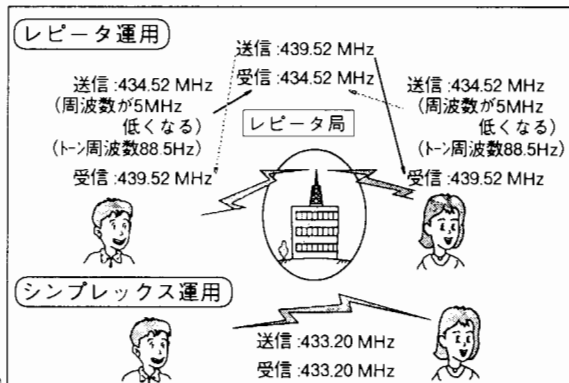

- ◆ 手順4で、表示が on の状態では、トーンスケルチスキャンは行いません。
- ◆ このスキャンはVFO周波数、メモリー周波数、コール周波数で行えます。手順1で、それぞれ周波数を呼び出した状態にし、手順2以降を行ってください。

レピータを使うには

レピータ運用について	48
レピータを使うには（オートレピータモード）	48
手動でレピータモードを設定するには	49
レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには（リバース）	49
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには	50
レピータ運用のトーン周波数を変えるには	50

レピータ運用について

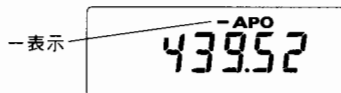
- レピータ局(自動中継局)を使用して、交信を行うことをレピータ運用といいます。また、この運用ができる状態にあるときをレピータモードといいます。
- レピータ局を使用すると、直接電波の届かない場所と交信することができます。
- レピータ運用では、送信と受信の周波数が異なります。この周波数の差をオフセット周波数といいます。430MHz帯では、オフセット周波数は5MHzです。1200MHz帯では、オフセット周波数は20MHzです。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に送信周波数が受信周波数よりオフセット周波数だけ低くなります。
- レピータ局は送信信号にトーン信号(88.5Hz)があるときに使用できます。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に88.5Hzのトーン信号が出ます。

レピータを使うには
(オートレピータモード) 

- オートレピータモードとは、受信周波数をレピータ運用の周波数(439MHz台/1290~1292MHz台)に合わせると、自動的にレピータモードを設定する機能です。



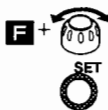
- 1 VFO状態にする
- 2 レピータ局の周波数に合わせる
- 3 表示部に“-”が表示されているのを確かめる



- 4 受信するには話したい相手が送信するのを待つ
- 5 送信するには、**[PTT]** を押しながら、マイクに向かって話す

オートレピータモードは以下の手順で解除できます。

- 1 **[SET]** キーを押す
- 2 セレクターを回し、表示を At rPt:on にする



- 3 **[E]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を on から oF にする
- 4 終了するには、**[SET]** キーを押す



- ◆初期状態では、on に設定されています。
- ◆この機能は、144MHz帯では動きません。

手動でレピータモードを設定するには

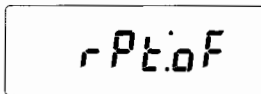
- 手動でレピータモードの設定および解除ができます。また、この機能を使うと、受信周波数からオフセット周波数分、送信周波数をシフトさせることができます。



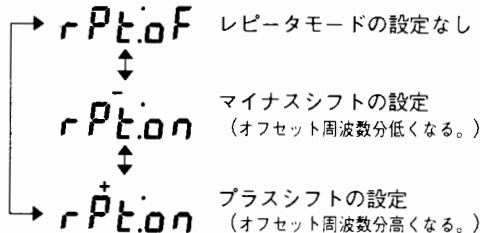
1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を rPt: oF にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、レピータモード(シフト方向)の設定を行う



4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



- ◆オフセットした送信周波数が、アマチュアバンド外になる場合は送信できません。このとき、[PTT] を押しと OFF が表示されます。

レピータ運用時に相手局の 直接波を受信するには(リバーズ)

- レピータモードのときに [MONI] キーを押すと、押し続けている間受信周波数がオフセット周波数分低くなります。この機能を使うと、相手局の直接波(レピータを介さない信号)が受信できるか確かめることができます。もし、直接波が受信できるときは、レピータを使わない交信を試してください。

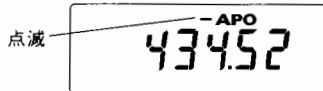


1 レピータ局の周波数に合わせて、レピータモードにする




2 [MONI] キーを押し続ける

3 “-”が点滅しているのを確かめる
(表示部の周波数がオフセット周波数分低くなります。)



- ◆リバーズした周波数が、アマチュアバンド外になる場合、この機能は動きません。このとき、oFF が表示され、そのままの周波数でスケルチが開きます。
- ◆リバーズしないでスケルチを開くには、[F] キーを押しながら [MONI] キーを押してください。リバーズしないでスケルチが開いたままになります。解除するときは、[MONI] キーを押してください。

レピータ運用の
オフセット周波数を変えるには 

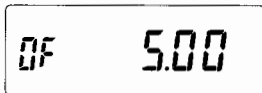
- 本機はオフセット周波数を変更することができます。これは、将来5MHz(1200MHz帯は20MHz)以外のオフセット周波数を使用するレピータ局に対応するためです。設定できる範囲は、0~99.995MHzです。



1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を OF 5.00 にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、新しいオフセット周波数にする




4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



◆本機は、クイックエンコーダー方式を採用しています。セレクターを速く回すと、周波数が大きく変化しやす。

◆オフセット周波数設定時の周波数ステップは、VFO状態の周波数ステップと同じです。

◆周波数を1MHz/100kHzステップで変える機能(D22)は使用できません。

レピータ運用の
トーン周波数を変えるには 

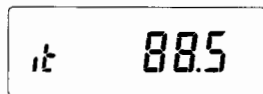
- 本機はレピータ用トーン周波数を88.5Hz以外に設定できます。これは、将来88.5Hz以外のトーン周波数を使用するレピータ局に対応するためです。C701は、39種類のすべてのトーン周波数を実装しています。C501/C601は、9種類のトーン周波数を実装しています。



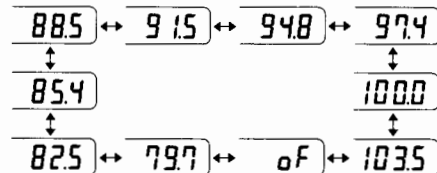
1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を it 88.5 にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、新しいトーン周波数にする



※C501/C601の場合



4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



◆初期状態は88.5Hzに設定されています。

◆C501/C601実装のトーン周波数

79.7	82.5	85.4	88.5	91.5	94.8
97.4	100.0	103.5			計9種類

C501/C601で、実装されている9種類以外のトーン周波数を使用するには、トーンエンコーダーモード(P.57)に設定して使用してください。

C501/C601でトーンエンコーダーモードを設定するには、オプションのトーンスケルチユニットCTN115が必要です。

◆C701実装のトーン周波数

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9
186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3			計39種類

◆トーン信号を送出しないようにできます。この場合は、手順3でoFに設定してください。

レピータを使うには

こんな使いかたもできます

電池を長くもたせるには (バッテリーセーブ)	54
自動的に電源を切るには (オートパワーオフ)	54
間違って送信しないためには (PTTロック)	55
ピープ音を鳴らさないようにするには	55
一定以上の強い信号だけを受信するには (RFスケルチ)	56
トーンスケルチを使って	56
トーンエンコーダー / トーンスケルチを使うには	57
トーンスケルチ運用のトーン周波数を変えるには	57
トーンスケルチユニットを取り付けるには (C501/C601のみ)	58

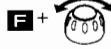
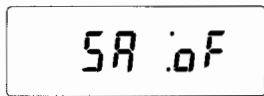
こんな使いかたもできます

電池を長くもたせるには (バッテリーセーブ)

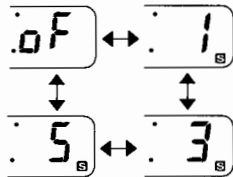
- 電池を長くもたせるために、本機が待ち受け時に消費する電流を少なくすることができます。また、この電流を少なくしている時間を変更できます。



- 1 [SET] キーを押す
- 2 セレクターを回し、表示を SA :oF にする



- 3 [F+] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から設定する時間にします



(このときの数字は、電流を少なくしている時間を秒で表わしています。)



- 4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



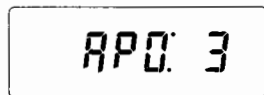
- ◆この機能を使うと、話しの始めが切れることがあります。
- ◆初期状態では、oF(設定なし)に設定されています。
- ◆スキャン中は、この機能は働きません。

自動的に電源を切るには (オートパワーオフ)

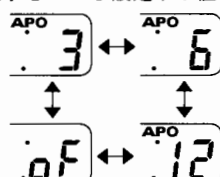
- 約30分間、送信、受信またはキー操作がないとき、自動的に電源を切ることができます。電源が切れる1分前に警告音(ピッピッピ)が鳴ります。



- 1 [SET] キーを押す
- 2 セレクターを回し、表示を APO: 3 にする



- 3 [F+] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を 3 から設定する値にします



(このときの数字は、電源が切れるまでの時間を次のように表わします。3=30分、6=60分、12=120分、oF=設定なし。)



- 4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



- ◆この機能を使うと、電源の切り忘れによる電池の消耗を抑えることができます。
- ◆初期状態では、3 (30分) に設定されています。
- ◆スキャン中は、この機能は働きません。

間違って送信しないためには (PTTロック)

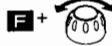
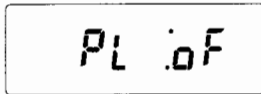
- 間違って送信しないように、PTTの動作を停止することができます。



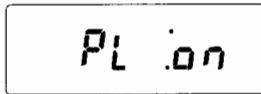
1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を PL :oF にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から on にする



4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す

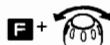
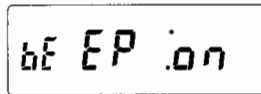
ビーブ音を鳴らさないようにするには



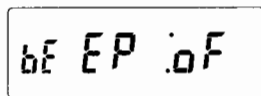
1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を bEEP:on にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、表示を on から oF にする



4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



- ◆この機能を解除するには、手順3で表示を on から oF にしてください。
- ◆この機能が on になっているときに、[PTT] スイッチを押すと PL が表示されます。
- ◆初期状態では、oF(設定なし)に設定されています。



- ◆この機能を解除するには、手順3で表示を oF から on にしてください。
- ◆初期状態では、on(設定あり)に設定されています。

こんな使いかたもできます

一定以上の強い信号だけを 受信するには(RFスケルチ)

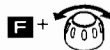
- 入力信号(RF)の強さ、つまりSメーターの振れが一定の割合以上になったときのみ、スケルチが開く機能です。



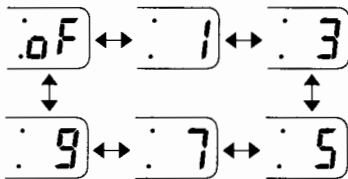
1 **[SET]** キーを押す

2 セレクターを回し、表示を rFSQL:oF にする

rf 59L:oF



3 **[F+]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を oF から設定する値にする



(それぞれの数値は、Sメーターの振れる割合を示します。)



4 もとの表示に戻るには、**[SET]** キーを押す



◆メーターの振れる割合と設定した数値の関係は以下ようになります。

oF 設定なし	5	
1	7	
3	9	

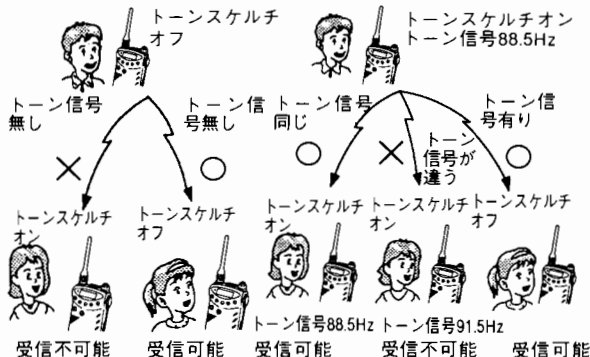
トーンスケルチを使って

- C701では、トーンスケルチが実装されています。C501/C601では、オプションのトーンスケルチユニットCTN115を装着することによって、トーンスケルチを使うことができます。この機能を使うと、送信したときにトーン信号が同時に出来ます。これにより、トーンエンコーダーとトーンスケルチが使えます。



- トーンエンコーダーとは、送信するときにトーン信号が出ます。

- トーンスケルチとは、送信するときにトーン信号が出ます。また、受信するときに、自分と相手のトーン信号が同じでない音声がありません。



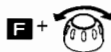
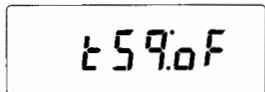
トーンエンコーダー/ トーンスケルチを使うには



1 [SET] キーを押す

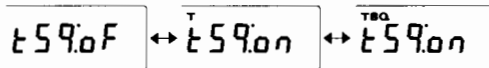


2 セレクターを回し、表示を tSq:oF にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回す
トーンエンコーダーを使うには、表示を oF から
Ton にする
トーンスケルチを使うには、表示を oF から
TSQ on にする

設定なし トーンエンコーダー トーンスケルチ



4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



- ◆レピータモードが設定されているときに、この機能を設定した場合、レピータ用トーンは送出されません。トーンスケルチ用トーン周波数が送出されます。
- ◆トーンスケルチを設定しているときでも、[MONI] キーを押すと、スケルチを開くことができます。
- ◆C501/C601では、オプションのトーンスケルチユニットCTN115を装着しないと、この操作はできません。

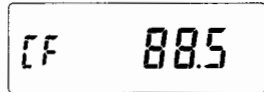
トーンスケルチ運用の トーン周波数を変えるには



1 [SET] キーを押す



2 セレクターを回し、表示を CF 88.5 にする



3 [F] キーを押しながら、セレクターを回し、
新しいトーン信号の周波数にする



4 もとの表示に戻るには、[SET] キーを押す



◆トーン信号の周波数 (Hz)

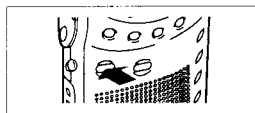
67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9
186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3			

計39種類

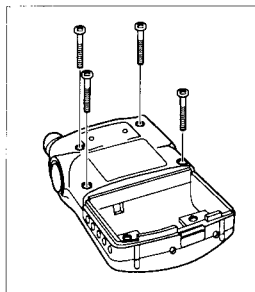
- ◆初期状態は88.5Hzに設定されています。
- ◆C501/C601では、オプションのトーンスケルチユニットCTN115を装着しないと、この操作はできません。

トーンスケルチユニットを取り付けるには

〈C501/C601のみ〉

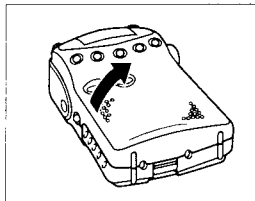


1 [PWR] キーを押し電源を切る

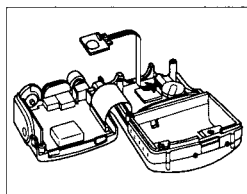


2 アンテナと電池を外す

3 本機背面のネジを4本外す
(プラスドライバーの2.0mm
用を使用してください。)



4 ケースをゆっくりと開ける
(無理に開けようとすると、
内部のフレキシブル基板を
破損する恐れがあります。)



5 トーンスケルチユニットを、
まっすぐコネクタに差し込
む

6 ケースを開める

7 手順3で外したネジを取り
付ける

トーンデビエーションを調整するには

● トーンスケルチユニットは、工場出荷時に調整されていま
す。従って調整の必要はほとんどありません。もし、調整
を行う場合は、以下の手順で行ってください。

- 1 トーンスケルチユニット取り付け後、アンテナ端子に
デビエーションメーターを取り付ける
- 2 本機の周波数を435.02MHzにする
- 3 トーンエンコーダーの設定をする (P. 57)
- 4 トーン周波数を88.5Hzにする (P. 57)
- 5 外部マイクロホン端子に22kΩのダミープラグを入れる
- 6 無線機を送信状態にし、デビエーションメーターが±
0.7kHzになるように、トーンスケルチユニットの半固
定抵抗RG03を調整する




◆ トーンスケルチユニットの取り付けや調整は、販売
店または当社のサービスセンターで行うことをおす
めします。

ご参考に

故障とお考えになる前に	60
セットモード一覧	61
オプションの紹介	62
アフターサービスについて	62
定 格	63
運用にあたって	64
開局申請の書きかた	66
送信機系統図	68
さくいん	70

故障とお考えになる前に

- サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。
- 電源が入らない
 - 電池が消耗している。
- 電池を交換するたびに初期状態になる
 - 内部のリチウム電池が消耗している。(C501/C601のみ)
- キーやセレクターを操作しても受け付けない
 - 周波数ロックが設定されている。(■が表示されている)
- 受信しない/強い信号しか受信しない
 - アンテナが外れている、緩んでいる。
- スケルチが閉じない(ザーという音が出る)
 - モニター状態のままになっている。
- 受信音がしない
 - 音量ツマミが下方向に回し切っており、音が聞こえない。
 - トーンスケルチになっている。
 - RFスケルチが設定されている。
- 送信しない
 - PTTロックになっている。(PTTを押すと、PLが表示されます)
 - 電池が消耗している。
 - レピータモードで送信周波数がアマチュアバンドから外れている。(PTTを押すと、OFFが表示されます。)
- 送信出力が少ない
 - アンテナが外れている、緩んでいる。
 - アンテナとの整合が悪い。
 - 電池が消耗している。
- メモリーに書き込めない
 - 内部のリチウム電池が消耗している。(C501/C601のみ)
 - メモリーアドレスに空がない。
- スキャンしない
 - モニター状態になっている。
- メモリスキャンしない
 - メモリーが全て空メモリーになっている。または、ひとつしかメモリーされていない。
 - メモリスキャンメモリーのとき、メモリスキャンメモリーの登録しているメモリーがない。または、ひとつしか登録されていない。
- レピータ局をアクセスしない
 - レピータ局と離れすぎている。
 - レピータ局が動作していない。
 - トーン周波数、オフセット周波数が異なっている。
 - シフト方向が異なっている、設定されていない。
- トーンスケルチが動作しない
 - トーンスケルチユニットCTN115が装着されていない。(C501/C601はオプション。C701は実装済み。)
 - 相手局と離れすぎている。
 - 相手局とトーン周波数が一致していない。

セットモード一覧

SET MODE		呼び出し、終了 選択	機 能		
★:マイキー登録可能					
初期表示					
St	20	★	周波数ステップの選択 (P22)	PL oF	★ PTTロックのON/OFF選択 (P55)
F- St	10	★	周波数ステップの100kHz/1MHzの選択 (P22)	FL oF	★ 周波数ロックのON/OFF選択 (P23)
rPt.oF		★	手動でのレピータモード設定 (P49)	FL [H] oF	★ 周波数ロック時のセレクター使用可能なON/OFF選択 (P23)
※1 t59.oF		★	トーンエンコーダー/トーンスケルチの設定 (P57)	bE EP on	★ キー操作時のビーブ音ON/OFF選択 (P55)
※1 [F	885		トーンスケルチ運用のトーン周波数選択 (P57)	rF 59LoF	★ RFスケルチの選択 (P56)
it	885		レピータ運用のトーン周波数選択 (P50)	bnd on	★ バンド区分のON/OFF選択 (P26)
oF	5.00		レピータ運用のオフセット周波数選択 (P50) (dUP:oF設定の時)	m [Lr	メモリーの消去 (P33)
SP	433.00		スプリットメモリー専用の送信周波数 (P37) (dUP:on設定の時)	[H] oF	★ メモリーアドレスのチャンネル表示 (P35)
dUP.oF		★	スプリットメモリーの設定 (P37)	mm oF	★ メモリースキャンメモリーの設定 (P43)
SA		★	バッテリーセーブの時間選択 (P54)	bm 5.oF	★ ブロックメモリースキャンのON/OFF選択 (P45)
RPO ^{APo}	3	★	オートパワーオフの時間選択 (P54)	Scn. P	★ スキャンタイプの選択 (P39)
				Rt rPt.on	★ オートレピータモードのON/OFF選択 (P48)
				※2 SYS-1	★ システムバンクの選択 (P13)

※1: C501/C601では、オプションのトーンスケルチユニットCTN115を装着していない場合、このセットモードは表示されません。

※2: C501/C601では、表示されません。

オプションの紹介

CLC502	ソフトケース
CMP111	マイク&スピーカー
CMP115	小型マイク&スピーカー
CMP113	タイピンマイク
CMP123	イヤホンマイク
CHP111	PTT付きヘッドセット
CHP150	VOX付きヘッドセット
CMB600	CHP150用ヘルメットクリップ
CSA401	充電器
CNB401	ニッケド充電電池
CMB112	モバイルブラケット
CTN115※	トーンスケルチユニット(C501/C601のみ)

※C501/C601で、次の機能を使うには、オプションのトーンスケルチユニットCTN115が必要です。

- トーンエンコーダー/トーンスケルチを使った運用 (P.57)
- レピータ運用で、内蔵のレピータ用トーン周波数以外のトーン周波数を使った運用 (P.50,57)

※C701は、あらかじめトーンスケルチが実装されています。トーンスケルチユニットCTN115を新たに購入する必要はありません。

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または当社営業所、当社サービスセンターにご相談ください。

定 格

一般仕様

周波数範囲	C501:	144.000 ~ 145.995MHz	
		430.000 ~ 439.995MHz	
	C601:	430.000 ~ 439.995MHz	
		1260.000 ~ 1299.990MHz	
	C701:	144.000 ~ 145.995MHz	
		430.000 ~ 439.995MHz	
		1260.000 ~ 1299.990MHz	
電波型式			F 3
マイクロホン入力インピーダンス			2 k Ω
スピーカ入力インピーダンス			8 Ω
動作電圧範囲			DC 2.2V ~ 3.5V
定格電圧			DC 3.0V
消費電流			
送信時	C501:	144/430MHz帯	約280mA
	C601:	430MHz帯	約280mA
		1200MHz帯	約220mA
	C701:	144/430MHz帯	約280mA
		1200MHz帯	約220mA
待ち受け時	C501:	144MHz帯	約34mA
		430MHz帯	約38mA
	C601:	430MHz帯	約38mA
		1200MHz帯	約40mA
	C701:	144MHz帯	約34mA
		430MHz帯	約38mA
		1200MHz帯	約40mA
バッテリーセーブ時(設定:1秒)			約11mA
本体寸法			
		58(幅)×80(高さ)×25(奥行き)mm (突起物除く)	
		64(幅)×95(高さ)×29(奥行き)mm (突起物含む)	
本体重量			約160g
		(電池、アンテナ含む)	

受信部

受信方式			ダブルスーパーヘテロダイナ
中間周波数	C501:	1st IF	23.05MHz
		2nd IF	450kHz
	C601/C701:	1st IF	58.05MHz
		2nd IF	450kHz
受信感度			
	C501:	144/430MHz帯	-10dB μ (-16dB μ : JAJA測定法)
	C601:	430MHz帯	-10dB μ (-16dB μ : JAJA測定法)
		1200MHz帯	-8 dB μ (-14dB μ : JAJA測定法)
	C701:	144/430MHz帯	-10dB μ (-16dB μ : JAJA測定法)
		1200MHz帯	-8 dB μ (-14dB μ : JAJA測定法)
入力0.5 μ V時のS/N			30dB以上
スケルチ開放感度			-10dB μ (-16dB μ : JAJA測定法)
オーディオ出力			約100mW (8 Ω 、10%歪時)

送信部

送信出力			
3V(電池)	C501:	144/430MHz帯	約280mW
	C601:	430MHz帯	約280mW
		1200MHz帯	約100mW
	C701:	144/430MHz帯	約280mW
		1200MHz帯	約100mW
変調方式			リアクタンス変調
最大周波数偏移			\pm 5kHz
スプリアス発射強度	C501:	144/430MHz帯	-40dB以下
	C601:	430MHz帯	-40dB以下
		1200MHz帯	-30dB以下
	C701:	144/430MHz帯	-40dB以下
		1200MHz帯	-30dB以下
内蔵マイク			エレクトレットコンデンサーマイク

●本機の外觀および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

運用にあたって

無線局運用規則(昭和25年電波監理委員会規則第17号)第258条の2の規定に基づき、1,907.5kHzから10.25GHzまでのアマチュア局が動作することを許される周波数帯(アマチュアバンド)における「アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別」が、郵政省告示(平成4年7月1日施行)で定められています。

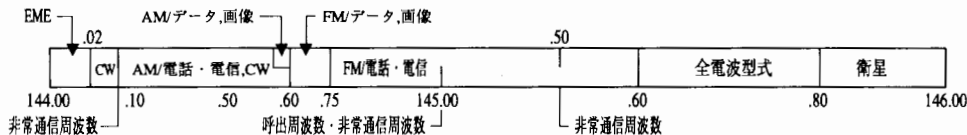
この使用区別は、多様なアマチュア無線の利用への対応、混信防止及び電波のより一層の有効利用を図る目的で、アマチュアバンドごとに使用可能な電波の型式に対応して周波数帯を設定しています。

使用区別

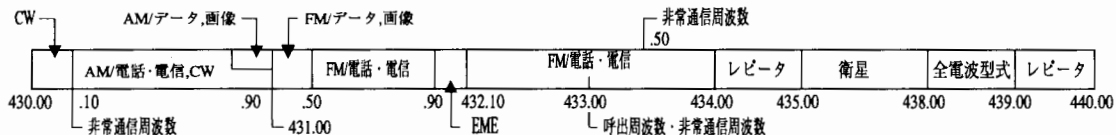
- (1) 144MHzから1200MHzまでのアマチュアバンドにおけるアマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数は、使用区別図のとおりです。なお、144MHz帯、430MHz帯及び1200MHz帯においては、JARLのアマチュア局によりJARLのアマチュア業務の中継用無線局を遠隔操作する場合には、A1, A2, F2 及び F3 電波により全周波数を使用することができます。
- (2) 使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」及び「呼出周波数」は、FM/電話・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することができます。
- (3) 使用区別図中の「非常通信周波数」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。
- (4) 430MHz及び1200MHzの各周波数帯は、国際電気通信条約附属無線通信規則第8条の周波数分配表に従って運用しているアマチュア業務以外の業務の無線局に妨害を与えない場合に使用できます。
- (5) この使用区別に違反して運用した場合は、電波法に基づき無線局の運用停止などの行政処分の対象となります。

使用区別図

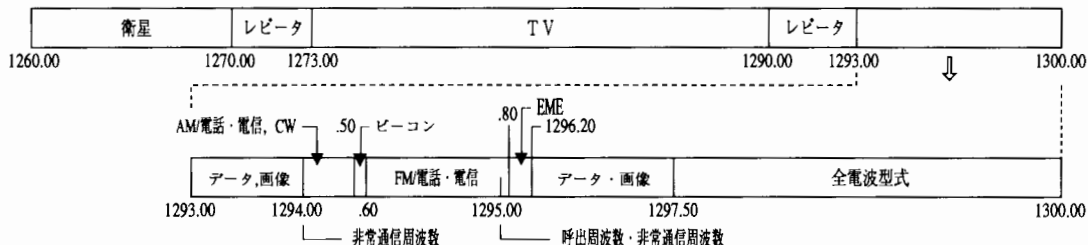
144MHz帯 周波数:MHz



430MHz帯 周波数:MHz



1200MHz帯 周波数:MHz



開局申請の書きかた

本機は、JARdの技術基準適合機です。「アマチュア局の無線設備の技術基準適合証明書発行願・保証認定願」および「工事設計書」に技術基準適合証明番号を記載することで、送信機系統図と工事設計書の発射可能な電波の型式、周波数の範囲、変調の方式、定格出力および終段管の記入を省略できます。

- ①技術基準適合証明番号は、本機の背面に貼られている技適証明ラベルの番号です。
技術基準適合証明でアマチュア無線局を開局する場合は、「技術基準適合証明発行願」と「工事設計書」には、この番号を記入してください。
- ②保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計書」にこれらの項目を記入してください。
保証認定が必要な場合は、次の通りです。
 1. JARL登録送信機およびその改造機
 2. 技適証明送信機を改造した改造送信機
 3. 技適証明送信機に付属装置(TNC装置、FAX装置、RTTY装置など)、トランスバータまたはブースター等を付加した送信機
 4. 自作した送信機
- ③使用する送信空中線(アンテナ)の型式を記入してください。
なお、本機付属のアンテナは単一型です。

		C501	C601	C701	
①	技術基準適合証明番号	□□□□□□□□	□□□□□□□□	□□□□□□□□	
	発射可能な電波の型式、周波数の範囲	F 3 { 144MHz帯 430MHz帯	F 3 { 430MHz帯 1200MHz帯	F 3 { 144MHz帯 430MHz帯 1200MHz帯	
	変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調	リアクタンス変調	
②	定格出力	144MHz帯 280mW 430MHz帯 280mW	430MHz帯 280mW 1200MHz帯 100mW	144MHz帯 280mW 430MHz帯 280mW 1200MHz帯 100mW	
	終 段 管	名称個数	144MHz帯 2SC3356 x 3 430MHz帯 2SC3356 x 3	430MHz帯 2SC3356 x 3 1200MHz帯 2SC4926 x 3	144MHz帯 2SC3356 x 4 430MHz帯 2SC3356 x 4 1200MHz帯 2SC5011 x 3
		電 圧	144MHz帯 2.8V 430MHz帯 2.8V	430MHz帯 2.8V 1200MHz帯 2.8V	144MHz帯 2.8V 430MHz帯 2.8V 1200MHz帯 2.8V
③	送信空中線の型式	単一型			
	その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している			

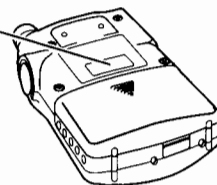


◆詳しくは、申請書に付属している「申請書の書き方」をご覧ください。

◆技適証明ラベルは、本機の背面に貼付されています。

技術基準適合証明番号は、技適証明ラベルに、1台ごとに異なる番号が記載されています。

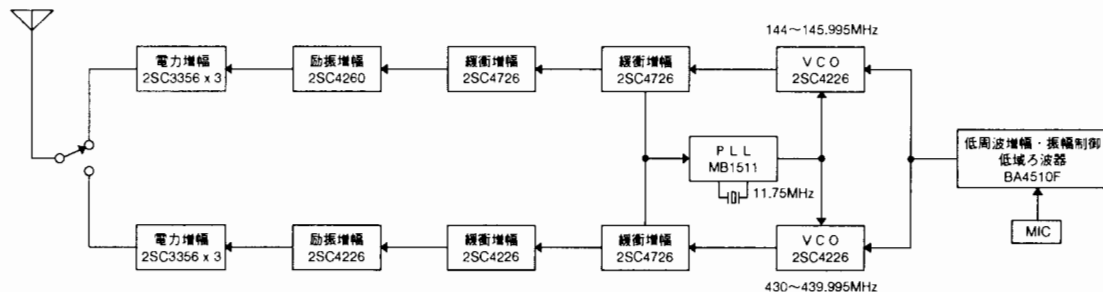
技適証明ラベル



送信機系統図

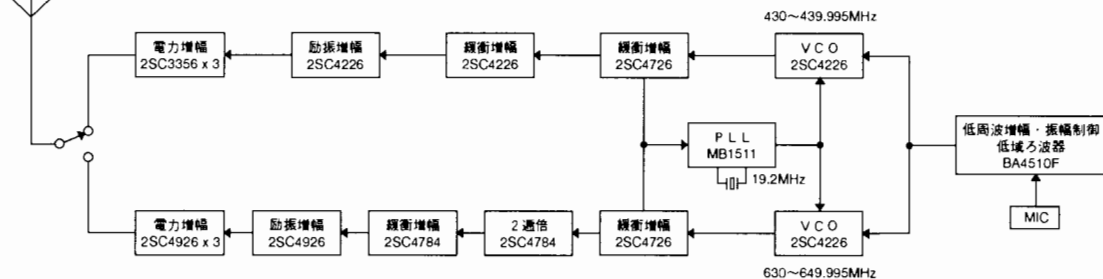
C501

144.0~145.995MHz
430.0~439.995MHz



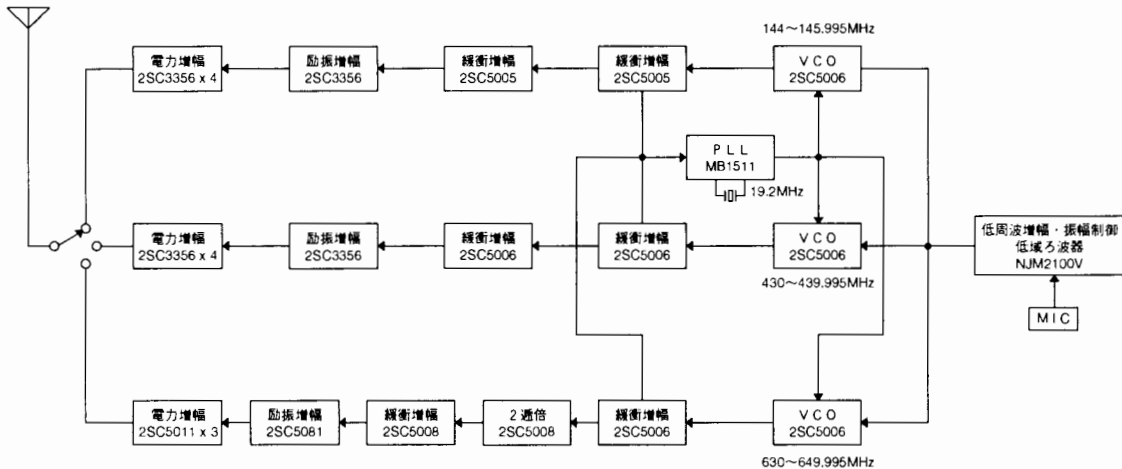
C601

430.0~439.995MHz
1260.0~1299.990MHz



C701

144.0~145.995MHz
 430.0~439.995MHz
 1260.0~1299.990MHz



さくいん

A		さ		ハンドストラップ	6
1MHzスキャン	39	システム1	13	ビープ音	55
APO	54	システム2	13	ビジースキャン	38
B	39	システムバンク	13	表示部	18
F	Ⅲ	周波数ステップ	22	プログラムスキャン	40
H	39	周波数帯	11	ブロック	45
P	Ⅲ	周波数ロック	23	ブロックメモリスキャン	45
PTT	12	受信	12	ベルトクリップ	6
PTTロック	55	使用区別図	65	ポーズスキャン	38
RFスケルチ	56	シンプレックス運用	48	ホールドスキャン	38
RIT	27	スキャン	38	ま	
S	54	スケルチ	24	マイキー	25
T	57	スプリットメモリー	34	メモリー	30
TSQ	57	セットモード	Ⅲ,61	メモリーアドレス	30
VFO状態	11	セクター	11	メモリーシフト	32
VFOリセット	15	送信	12	メモリスキャン	42
あ				メモリスキャンメモリー	43
アンテナ	5	た		メモリーモード	30
オートパワーオフ	54	チャンネル表示	35	ら	
オートレピータ	48	電池	7	ランプ	24
オールスキャン	40	トーンエンコーダー	56	リセット	14
オールリセット	14	トーン周波数	50,57	リバース	49
オプション	62	トーンスケルチ	56	レピータ	48
オフセット周波数	48,50	トーンスケルチスキャン	46	レピータモード	48
音量	10	トーンスケルチ用トーン周波数	57	レピータ用トーン周波数	50
か		は		ロータリーチャンネルセクター	11
コールシフト	20	バッテリーセーブ	54		
コール周波数	20	バンド	11		
		バンド区分	26		

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

お問い合わせは
最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。